



Private Enterprise

Venture Pulse

Q2 2021

Global analysis of venture funding

日本語抄訳版

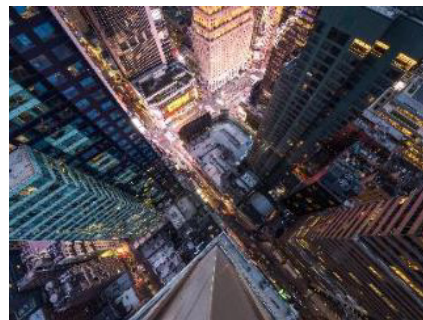
21 July 2021

要旨



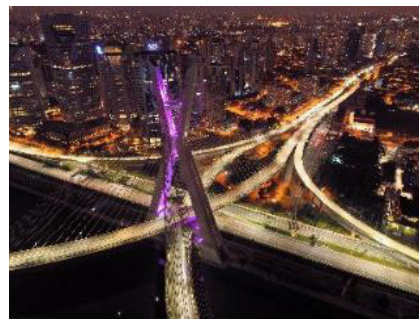
グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資が過去最高額の1,571億ドルを記録
- シリーズD以降の資金調達額のグローバル中央値は1億500万ドルに上昇
- 事業会社による投資が過去最高のペースで増加
- ユニコーン企業の投資ラウンドが2四半期連続で急増
- 上期のファンドレイジングは2020年の年間総額に迫る勢い
- グローバル上位10件の取引は8カ国で展開



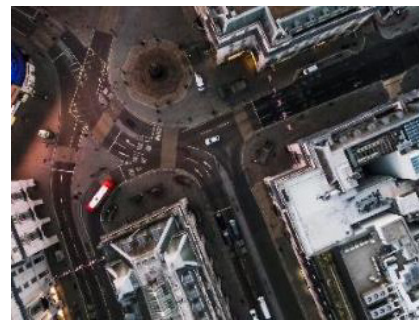
米国

- ベンチャーキャピタルによる投資総額は750億ドル、取引件数は3,296件
- シリーズD以降の資金調達額のグローバル中央値は1億ドルを超え過去最高額
- 事業会社による投資は2四半期連続で300億ドルを突破
- IPO活動は引き続き高水準を維持
- 経験豊富なファンドマネージャーがファンドレイジングを牽引



南北アメリカ

- 投資総額は過去最高の841億ドルを記録、取引件数は3,659件
- シリーズAの取引額が急増
- シリーズD以降のプレマネーバリュエーションの中央値は、21年上期で10億ドルに到達
- カナダは19件の大型取引が牽引し、過去最高の投資総額を記録
- ブラジルはNubankを含む大型取引により、投資総額25億ドル超を達成



ヨーロッパ

- 四半期の投資総額で過去最高を記録、340億ドル超、取引件数1,848件
- コーポレートベンチャーキャピタルによる投資が急増、投資総額160億ドル
- イグジットが2四半期連続で堅調
- 英国、ドイツ、フランス、北欧、イスラエルで投資総額が過去最高を記録
- ヨーロッパにおける取引上位10件のうち、ドイツが4件を占める



アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は堅調で、投資総額380億ドル、取引件数1,998件
- アーリーステージの資金調達が増加
- イグジット活動は前四半期に記録的な高水準となったが、例年並みの水準に回帰
- インドにおける投資が急増し、過去最高額の約80億ドルを記録
- 中国における超大型取引は減少しているが、投資は依然として堅調
- アジアにおける取引上位10件は、インドネシア、インド、中国、シンガポール、韓国に広がる

グローバル – 2021年 第2四半期

グローバルでのベンチャーキャピタルによる投資は、全地域における投資の堅調さを反映し世界中で急増しました。ヨーロッパおよび南北アメリカでベンチャーキャピタルによる投資の過去最高額を更新したほか、米国、オーストラリア、オランダ、スイス、イスラエル、インド、フランス、ドイツ、英国、ブラジル、メキシコ、カナダを含む多くの国で、四半期最高額を達成しています。

投資可能な資金が潤沢で、バリュエーションが高く、IPO活動に停滞が見られないことなどから、ベンチャーキャピタル市場は活況を呈しています。



南北アメリカ、ヨーロッパ、アジアが超大型投資ラウンドを誘致

2021年第2四半期は、世界の多くの地域でベンチャーキャピタルによる超大型投資ラウンドが増加しています。例として、米国 (Waymo : 25億ドル、SpaceX : 12億ドル、Epic Games : 10億ドル)、インドネシア (J&T Express : 20億ドル)、インド (BYJU : 15億ドル)、中国 (Horizon Robotics : 15億ドル)、ドイツ (Celonis : 10億ドル)、ブラジル (Nubank : 15億ドル)、オランダ (MessengerBird : 10億ドル) などが挙げられます。

また、スウェーデンのNorthvolt ABの投資ラウンド (27億5,000万ドル) には、機関投資家およびプライベートエクイティが参加しています。これらの取引の多くは、地域的な多様性を反映しているだけでなく、代替エネルギー、フィンテック、B2Bサービス、教育、ゲーム、物流、航空宇宙など、現在投資の注目分野となっているさまざまなセクターが含まれています。



ユニコーン企業の誕生数は年半ばにして2020年の総数を突破

2021年第2四半期は、世界中でユニコーン企業のステータスを獲得した企業が急増し、2021年の現時点でのユニコーン企業の総数は、2018年の179社という年間記録を上回っています。2021年第2四半期における新規ユニコーン企業の多くは米国企業ですが、ほかにも、メキシコのBitso、オーストラリアのSafetyCulture、日本のPaidy、オーストリアのGoStudentに至るまで、地域的な広がりが見られます。

ユニコーン企業の増加の背景には、ベンチャーキャピタルが既存のクライアントに注力しており、投資を通じて人材を育て、自社の売上およびバリュエーションの向上を目指すという、現在も続く傾向があると考えられます。過去2年間チケットサイズ (1回の投資額) が拡大してきた推移を考えると、増加するユニコーン企業は、今後IPOを目指すのか、あるいはバリュエーションを超えて成長する意欲が十分にあるのか、という疑問が生じます。これは、一定水準のバリュエーションに達した企業では、イグジットオプションがIPOに限定されてしまうためです。



コーポレートベンチャーキャピタルによる投資は引き続き堅調

コーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第2四半期、すべての地域で堅調でした。パンデミックの結果、デジタルトランスフォーメーション、イノベーション、ビジネスの全体的な改善に対するニーズが急速に高まりました。世界中の多くの一流企業は、ゼロからイノベーションを始める必要はなく、自社のトランスフォーメーションをニューノーマルに併せて加速させる一助となるようなスタートアップと協業する、あるいは投資する方がより適切なアプローチである、と認識するようになりました。



世界に楽観的な見方が広がる

いまだパンデミックは収束していませんが、世界中でCOVID-19ワクチンの普及が加速するにつれて楽観的な見方が広がっており、投資家はポストパンデミックの世界でも引き続き魅力的であると予想されるセクターに注目しています。世界のさまざまな部分が広がりを見せる今、ベンチャーキャピタルは、資金をフィンテック、デリバリー、B2Bサービスなど、パンデミックで成長が加速したセクターに投入し続けており、消費者行動に生じた主要な変化が過去の形態に戻ることはないと考えています。革新的な事業モデルを持つ、スピード、応答性、アジャイル型といったメリットを企業や顧客がよく理解している現状を考慮すると、企業や顧客はパンデミック後もその事業モデルを受け入れ続ける、とベンチャーキャピタルは予想しています。

グローバル — 2021年 第2四半期



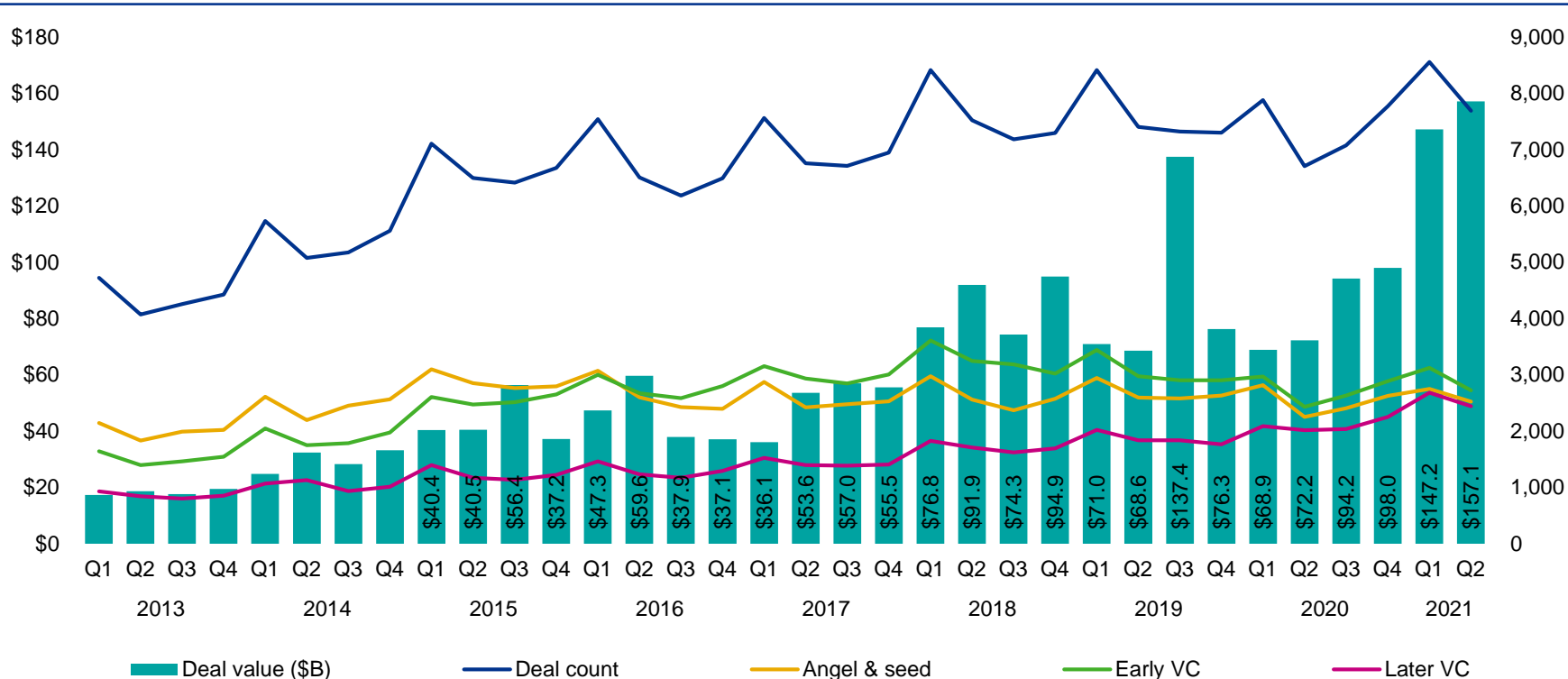
世界的に注目すべきトレンド

2021年第3四半期のベンチャーキャピタルによる投資は、市場のドライパウダー（投資可能な手元資金）が豊富で、従来型ではないベンチャーキャピタルの参入が増加しており、IPO活動が活発であることを踏まえると、ほとんどの地域で堅調に推移するものと予想されます。フィンテック、事業の生産性向上、健康、バイオテックなどの分野も、多くの投資を呼び込むと考えられます。クラウドでの取引が増加していることから、サイバーセキュリティも投資家にとって注目分野となっています。

ビジネスの世界でもサステナビリティの重要性が増していることから、ESG（環境、社会、ガバナンス）も投資家の注目を集めており、今後成長が見込まれます。すでにESGに即したビジネスモデルを実践している、EV（電気自動車）やフードテックなどの分野では投資が増加しています。今後これらの分野における投資は増加し続けると考えられ、投資決定をする際に、ESGの要素がこれまで以上に重視される可能性もあります。

Global venture financing

2013–Q2'21



Source: Venture Pulse, Q2'21. Global Analysis of Venture Funding, KPMG Enterprise. Data provided by PitchBook, July 21, 2021.

「グローバル規模で、ベンチャーキャピタルによる投資可能な資金は潤沢に存在しています。加えて現在のベンチャーキャピタル市場には、プライベートエクイティ、ファミリーオフィスなど、従来型のベンチャーキャピタル以外のプレイヤーが機会を求めて参入しています。世界中のほぼすべての地域で、ベンチャーキャピタルによる投資は信じがたいほど堅調であり、市場が世界規模で冷え込むことは考えられません。多額の資金が生まれ出されており、テック産業に対する投資額および投資意欲は増加しています。」



Jonathan Lavender
Global Head,
KPMG Private Enterprise

米国 — 2021年 第2四半期

2021年第2四半期、ベンチャーキャピタルによる投資額は前四半期をわずかに上回り、過去最高額を記録しました。



大規模投資ラウンドを呼び込むセクターの多様化

2021年第2四半期は、多種多様な米国企業が5億ドルを超える投資ラウンドを呼び込みました。例として、自動運転企業のWaymo（25億ドル）、航空宇宙企業のSpaceX（12億ドル）、ゲーム企業のEpic Games（10億ドル）、バイオテック企業のTreeline Biosciences（6億7,800万ドル）などがあります。またPerch（7億7,500万ドル）、Better（5億ドル）、Daily Pay（5億ドル）のフィンテック企業3社も、当四半期に大規模ラウンドによる資金調達を果たしています。これらの資金調達に代表されるように、広範囲のセクターが米国の投資家からの資金を呼び込んでいます。



ファンドレイジングは過去の記録を打ち破る勢い

2021年第2四半期も、米国におけるファンドレイジングは過熱し続けており、現時点での総額はすでに前年の記録に迫る勢いです。ファンドレイジングの活況からは、投資先を求めるドライパウダーが豊富に存在することが見て取れると同時に、有力なベンチャーキャピタルによる投資の成功が際立つ結果になっています。有力なベンチャーキャピタルは、ファンド期間を通じて今までより高いリターンを生み出しており、過去数期にわたるIPOやイグジットの成功事例を考慮すると、そのリターンはさらに拡大すると考えられます。そのため一部の機関投資家や従来型ではない投資家が、成功を収めているベンチャーキャピタルのファンドに積極的に投資するようになり、ファンドレイジングの総額をさらに押し上げる結果になっています。



IPO市場は依然として堅調

米国米国のIPO市場は、2021年第2四半期も堅調に推移しており、企業の上場準備活動に関して停滞は見られません。当四半期は多くのIPOが実施され、例として植物由来の代替乳製品企業のOatlyは、5月の上場で14億ドルの資金調達を果たし、初日の取引で株価が34%上昇しました¹。

当四半期にはダイレクトリスティングもいくつか実施され、例として仮想通貨取引所のCoinbase（4月）、Webサイトホスティング企業のSquarespaceが挙げられます。また、SPAC（特別買収



EVのエコシステムが投資を牽引

近年ベンチャーキャピタルは、EVに関するあらゆる事象に関心を持っています。そのため、特定の自動車テクノロジーや充電プラットフォームだけでなく、EVを支えるエコシステム全般に対してますます注目が集まっています。例として、ドライバーが買物や仕事をしている最中に自動車を充電できるような、目的地充電の開発もこれに含まれます。



米国で注目すべきトレンド

ベンチャーキャピタルによる投資は、特にフィンテック、自動車、AIなどの分野で、2021年第3四半期も堅調を維持することが予想されます。スエズ運河におけるエバーグリーン船舶座礁事故や、石油パイプライン企業のコロナアル・パイプラインが受けたランサムウェア攻撃などの結果生じたサプライチェーンの問題はありましたが、物流やサプライチェーンなどのソリューションに対する関心は増加傾向にあります。非接触型店舗関連のテクノロジーに対する投資に加え、アグリテック（農業技術）やフードテックに対する投資も、特にプラスチック代替包装やデリバリーなどの分野で成長が見込まれます。

IPO活動は、2021年第3四半期も堅調が続くと予想されます。過去数ヶ月間で設立された多数のSPACが投資先企業を選出する必要があることから、SPACを利用した上場についても、今後数四半期は注目すべき分野になると考えられます。

¹ <https://markets.businessinsider.com/news/stocks/oatly-stock-price-ipo-10-billion-valuation-plant-based-milk-2021-5-1030452000>

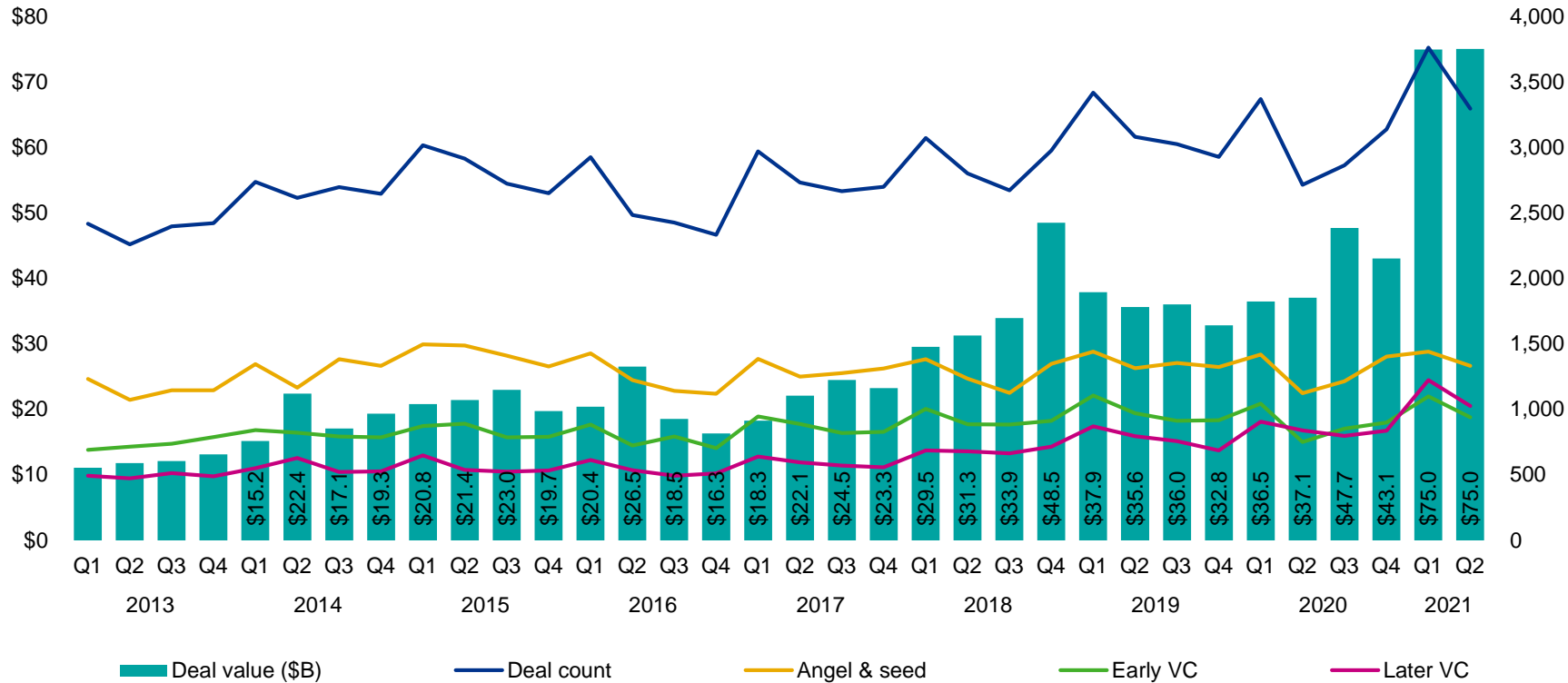
² <https://investorplace.com/hypergrowthinvesting/2021/06/sofi-stock-spac-merger-beginning-of-huge-breakout/>

³ <https://news.spacconference.com/2021/06/02/bark-and-northern-star-close-merger/>

米国 — 2021年 第2四半期

Venture financing in the US

2013–Q2'21



Source: Venture Pulse, Q2'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Enterprise. *As of June 30, 2021. Data provided by PitchBook, July 21, 2021.

米国では、バリュエーションが
高い水準で推移しており、さま
ざまな出資元からの資金が豊富
に存在し続けています。そのた
め、企業は成長ステージに応じ
て幅広い選択肢を取ることがで
き、たとえばレイターステージ
ラウンドを実施し、IPOの予定
を遅らせることも可能になりま
す。このように選択肢が広がる
ことで、ポストパンデミックの
結果が消費者や企業の行動にど
のような影響を与えるか確認し
た上での方針決定が可能になり、
企業は恩恵を受けることができ
ます。



Conor Moore
Global Co-Leader — Emerging Giants,
KPMG Private Enterprise, KPMG
Partner, **KPMG in the US**

南北アメリカ – 2021年 第2四半期

2021年第2四半期、南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は非常に堅調で、米国のWaymo（25億ドル）や、SpaceXとEpic Gamesによる10億ドル超の投資ラウンドなどが牽引しました。



南北アメリカはフィンテック投資が活況

2021年第2四半期、南北アメリカにおけるフィンテック関連投資は記録的な水準となり、1億ドル以上の投資ラウンドを多数呼び込みました。当四半期、米国のeコマース企業のPerchは7億7,500万ドルの資金を調達し、BetterとDailyPayはいずれも5億ドルの資金を調達しています。ラテンアメリカでは、Nubankが15億ドル、Bitsoが2億5,000万ドル、Cloudwalkが2億100万ドルの資金調達を行ったほか、カナダでは、Wealthsimpleが6億ドルの資金を調達しました。

ラテンアメリカにおけるフィンテック専門のベンチャーキャピタルは、主に決済および融資分野に注目していますが、米国およびカナダでは、ウェルスマネジメントやインシュアテック（保険分野のフィンテック）が注目されているほか、最近では不動産などのサブセクターを含み、広範囲の分野で投資が行われています。近年では、後払い決済（Buy now and pay later：BNPL）企業も数多くの投資を牽引しています。



ユニコーン企業というステータスは米国では一般的になりつつあるが、他地域ではいまだ重要なマイルストーン

2021年の上半期、南北アメリカでは148社の新規ユニコーン企業が誕生しました。投資家がバリュエーションで行き詰ることは以前より少なくなり、ユニコーン企業というステータスは、少なくとも米国ではその重要性を失っているように見受けられ、新規ユニコーン企業は137社となりました。米国では、デカコーン企業としてのステータス（100億ドル以上のバリュエーションに達している状態）が次の主要な差別化要因になると考えられます。

しかし南北アメリカの他地域では、ユニコーン企業としてのステータスはいまだに重要なマイルストーンです。カナダでは、2021年第2四半期、eコマース金融会社のClearco、法律実務管理企業のClio、AI専用チップメーカーのTenstorrent、AI搭載チャットボットプロバイダーのAda Support、ID識別企業のTrulioo、eコマース小売業者のSsense、という6社の新規ユニコーン企業



カナダにおいてもベンチャーキャピタルによる投資が活況

カナダのベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第1四半期時点で前四半期からほぼ倍増しており、第2四半期でも堅調さを維持しました。Wealthsimpleによる6億ドルを筆頭に、Ada Supportの1億3,000万ドル、Clioの1億1,000万ドルを含む資金調達が実施されました。

2021年第1四半期は、フィンテックやバイオテックAIなど同国における研究実績が豊富な分野が投資関心を集めたほか、B2Bソリューションは特に投資家にとっての注目分野となりました。過去数四半期にわたって、AI関連のスタートアップやスケールアップ企業（規模拡大のフェーズにある企業）によるさまざまな投資活動が実施され、自動運転車両のWaabi（1億カナダドル、シリーズA）による資金調達もこれに含まれています。これは、カナダ企業がAIイノベーションの商業化を目指して事業成長を続けており、その結果に対する自信の表れであると考えられます。

ディープテック（最先端の研究や革新的な技術に基づいて社会的課題を解決する）もまた、主に、BDC（Business Development Bank of Canada、カナダビジネス開発銀行）やOTPP（Ontario Teachers' Pension Plan、オンタリオ州教職員年金基金）など、世界中に影響を及ぼす未来のテクノロジーに長期的な資本を投入しようとする投資家から、注目を集め続けました。例として、2021年第2四半期、フォトンクス量子コンピュータ企業のXanaduは1億ドルの資金を調達しましたが、これにはBDCのDeep Tech Venture Fundからの資金や、OMERS Ventures（OMERS：Ontario Municipal Employees Retirement System、オンタリオ州公務員年金基金のVC部門）の追加資金が含まれていました。

南北アメリカ – 2021年 第2四半期



ラテンアメリカは2億ドル超の投資ラウンドを複数呼び込む

ラテンアメリカのベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第2四半期において非常に堅調で、ブラジルのNubankによる15億ドルを筆頭に、ブラジルの住居用不動産の賃貸プラットフォーム企業のQuintoAndar（3億ドル）、メキシコの暗号通貨プラットフォームのBitso（2億5,000万ドル）、ブラジルの決済企業のCloudWalk（2億100万ドル）による資金調達が行われました。Bitsoは資金調達により、中古自動車販売プラットフォームのKavak（2020年第4四半期のユニコーン企業）に続いて、メキシコで2番目のユニコーン企業になりました。

フィンテックは、ラテンアメリカ全体で依然としてベンチャーキャピタルによる投資における最注目分野であり、当四半期の上位4件の資金調達のうち3件をフィンテックが占めます。Nubankは2021年上半期に、単独ですでに15億ドルの投資を集めており、最新の投資ラウンドでは評価額が300億ドルに達しました⁴。



南北アメリカで注目すべきトレンド

南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第3四半期にかけても引き続き堅調であると予想されます。フィンテックをはじめ、AIベースのB2Bソリューション、健康、バイオテックについても投資が過熱しています。

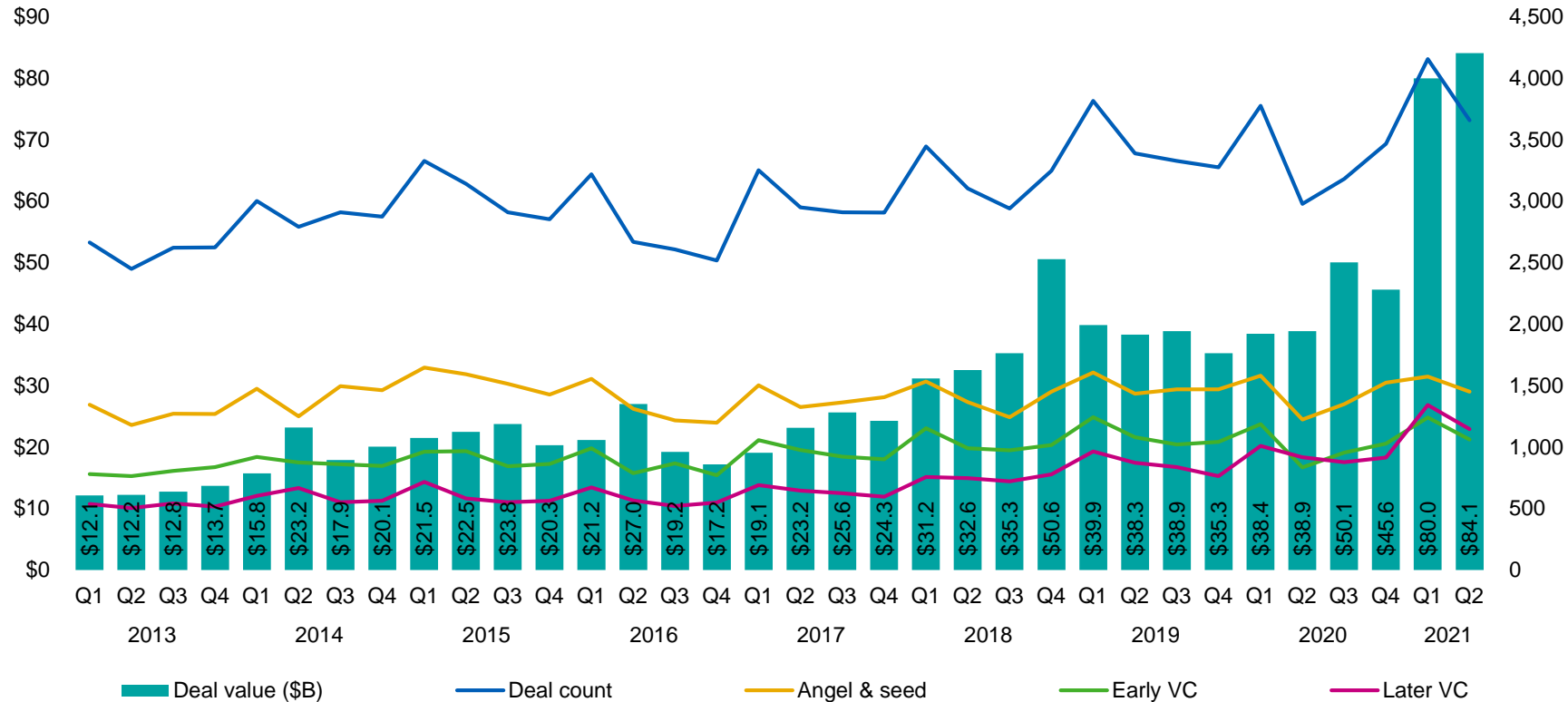
マクロレベルでは、特に米国でインフレーションに対する懸念が増大しており、市場やベンチャーキャピタルによる投資に長期的に影響を及ぼす可能性があります。

⁴ <https://www.forbes.com/sites/mariaabreu/2021/06/08/nubank-is-now-worth-30-billion-after-750-million-investment-led-by-berkshire/?sh=514a455716ce>

南北アメリカ – 2021年 第2四半期

Venture financing in the Americas

2013–Q2'21



Source: Venture Pulse, Q2'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Enterprise. *As of June 30, 2021. Data provided by PitchBook, July 21, 2021.

「カナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資や資金調達活動は文字通り爆発的であり、そのペースは衰える気配がありません。驚くまでもありませんが、健康とバイオテックは注目の投資分野になっています。一例を考えると、mRNA（メッセンジャーRNA）技術は、多くの企業がCOVID-19ワクチン以外の分野、たとえば糖尿病研究、癌研究などへの応用を模索している最中です。応用の可能性が明らかになれば、将来、同分野にはより多くの投資が集まるでしょう。」



Sunil Mistry
Partner, KPMG Private Enterprise,
Technology, Media and
Telecommunications,
KPMG in Canada

ヨーロッパ – 2021年 第2四半期

2021年第2四半期のヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルによる投資額は、NorthVolt、Celonis、MessengerBird、Trade Republic、Mollie、FlixBus、WeFoxand Klarnaなどの大型投資に牽引され、前四半期の記録を更新し過去最高を記録しました。ヨーロッパ全体としてバリュエーションは上昇を続けており、以前と比較してより高いマルチプルが採用されるケースが増えています。

市場に対する楽観的な見方が広がっており、資金が潤沢にあり、eコマース、B2B、デジタルサービスなどのトレンドを追う投資に投資家が殺到している状況が相まって、バリュエーションの上昇に拍車がかかっています。



多様なフィンテックが投資を呼び込む

ベンチャーキャピタルによるフィンテックへの投資は、ヨーロッパ全体で非常に堅調です。その一因には、さまざまなフィンテック企業が混在して投資を呼び込んでいることが挙げられます。例として、株取引プラットフォームのTrade Republic（9億ドル）、デジタル保険企業のWeFox（6億5,000万ドル）、決済企業のMollie（8億500万ドル）、後払い決済（BNPL）企業のKlarna（6億3,900万ドル）、Starling Bank（4億4,300万ドル）など多岐にわたっています。BNPLのようにコンセプトが明解なビジネスモデルも、企業にとってはユニークな価値を提供しています。2021年第2四半期、英国のZilchは8,000万ドルの資金調達を実施しました。同社はeコマースエンジン企業との共同ではなく、Mastercardと共同してBNPLを直接消費者に提供しています⁵。



IPOおよびSPACへの関心が増加

ヨーロッパでは、DeliverooによるIPOは困難を極めたものの、株式上場に対する関心は、IPOおよびSPACを利用した上場の両方において、増大し続けています。2021年第2四半期には、多くのIPOが成功を収めており、例として、事業の生産性向上支援のMonday.com（イスラエル）や代替乳製品企業のOatly（スウェーデン）によるNASDAQ上場⁶、サイバーセキュリティ企業のDarktrace（英国）やフィンテックのPensionBeelによるLSE上場が挙げられます。

ドイツの成長企業も、戦略的なイグジットとしてIPOを徐々に検討し始めており、成功するために何をすべきかに注目し始めています。この傾向は、IPOへの関心が比較的穏やかだった12～24ヵ月前とは大きく異なります。しかしながら、IPOが比較的大規模なシリーズDやシリーズEの投資ラウンドの代替となるのか、IPOに移行するまでの期間はレイターの投資ラウンドを通じて非上場を維持するのか、という疑問が生じます。

SPACを利用した上場への関心もヨーロッパでは増大しています。2021年第2四半期、英国のBabylon Healthが⁷、Alkuri Global Acquisition CorpとのSPACによる合併に合意したほか⁷、イスラエルのInnovidも、ION Acquisition Corpとの合併計画を発表しました⁸。



英国でのベンチャーキャピタルによる投資は引き続き堅調

英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、前四半期に過去最高額を記録しましたが、その後もCOVID-19ワクチン接種が進行しており、多くの企業がブレグジット後の世界に自信を持ち始めていることと相まって、2021年第2四半期も引き続き堅調でした。2021年第2四半期は、フィンテックおよびヘルステックが大規模な資金調達を達成しています。例として、B2B決済企業のSaltPay（5億ドル）、AI創薬企業のExscientia（4億4,400万ドル）、デジタル銀行のStarling Bank（4億4,300万ドル）、デジタルヘルス企業のHuma（1億3,000万ドル）などが挙げられます。取引の大部分はレイターステージの資金調達ですが、アーリーステージの資金調達についてもある程度関心が集まっており、シリーズAや小規模ラウンドでもこれまで以上に資金調達が行われ始めています。

⁵ <https://techcrunch.com/2021/04/19/uks-zilch-raises-80m-at-a-500m-valuation-for-its-direct-to-consumer-buy-now-pay-later-service/>

⁶ <https://markets.businessinsider.com/news/stocks/oatly-stock-price-ipo-10-billion-valuation-plant-based-milk-2021-5-1030452000>

⁷ <https://www.cnn.com/2021/06/03/online-health-startup-babylon-to-go-public-via-4point2-billion-spac-deal.html>

⁸ <https://nocamels.com/2021/06/innovid-spac-merger-public-valuation/>

ヨーロッパ – 2021年 第2四半期



ドイツにおけるベンチャーキャピタル市場は依然として活況

ドイツにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、プロセスマイニングツール企業のCelonisによる10億ドルの資金調達もあり、2021年第2四半期に過去最高額を記録しました。同社のバリュエーションは投資ラウンドを経て100億ドルを超え、ドイツ初のデカコーン企業となりました。ドイツやヨーロッパの他の諸国において、ベンチャーキャピタルによる資金調達への参加は拡大しており、ソプリン・ウエルス・ファンド（政府系ファンド）などの従来型ではない投資家が積極的に参加しています。エコシステムの観点から見ると、競争力のあるテックハブとして、ミュンヘンとベルリンとの結び付きがますます進んでおり、ケルンとハンブルグでもエコシステムが成長しています。



投資家をひきつける北欧地域

北欧地域における投資は、2021年第2四半期も予想以上に堅調で、バッテリーメーカーのNorthvolt AB（27億5,000万ドル）、フィンテックのKlarna（6億3,900万ドル）、デジタルヘルス企業のKry（2億7,000万ドル）による資金調達が行われました。ドライパウダーが潤沢であるため、セクターや地域を越えた多数の企業が、大型の投資ラウンドを呼び込みました。2021年第2四半期は、スウェーデンが最大規模の資金調達を行っていますが、他の北欧諸国も大規模な資金調達を実施しました。ノルウェーの食料品プラットフォームのOda（2億6,400万ドル）、フィンランドのデジタルヘルス企業のOura（1億ドル）、デンマークの創薬企業のADCendo（6,000万ドル）による資金調達がこれに含まれます。



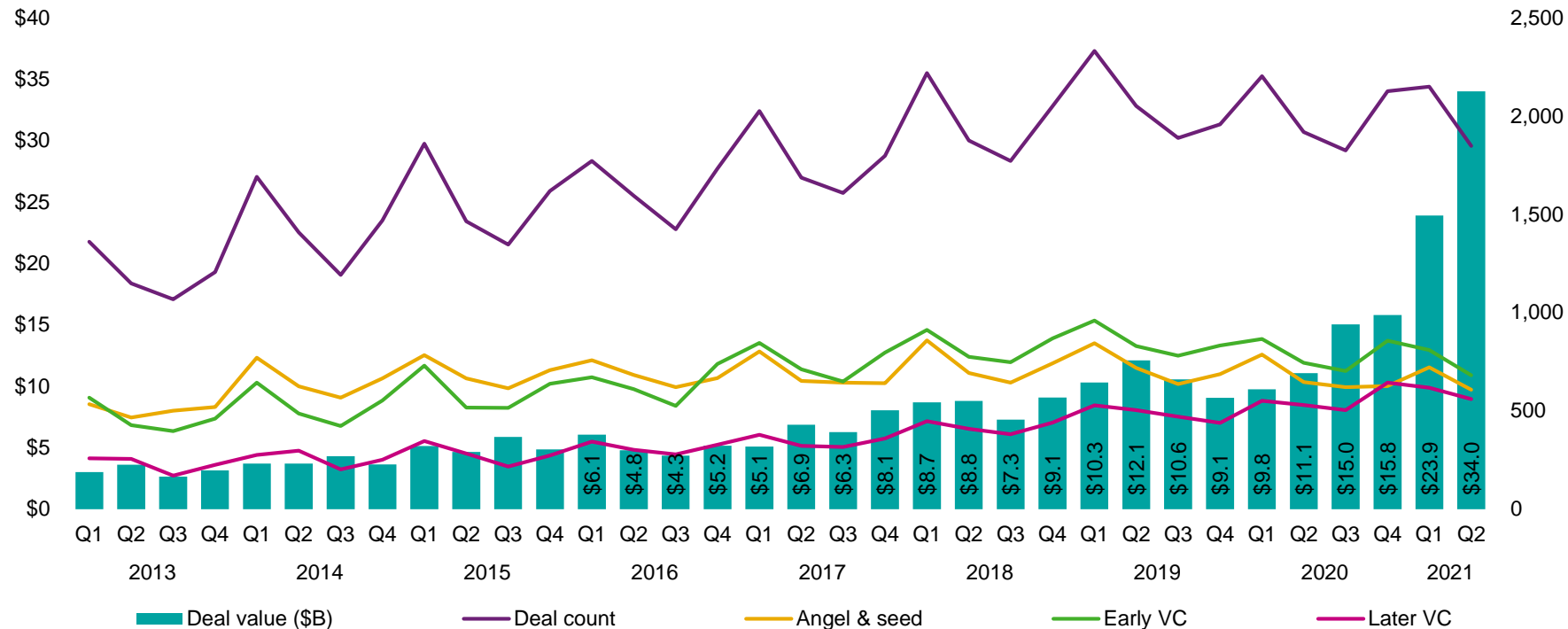
ヨーロッパで注目すべきトレンド

2021年第3四半期のヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、特にフィンテック、ヘルスケア、B2Bサービスなどの分野で堅調を維持すると予想されており、同時にサイバーセキュリティへの投資が著しく増加することが見込まれています。

ヨーロッパ — 2021年 第2四半期

Venture financing in Europe

2013–Q2'21



Source: Venture Pulse, Q2'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Enterprise. *As of June 30, 2021. Data provided by PitchBook, July 21, 2021.

“ パンデミックから抜け出しつつあることで楽観的な見方が広がっていますが、ワクチン接種プログラムの普及がこの楽観傾向に関係していることは、驚くに値しません。英国では、取引額と同様に取引件数も増加するという非常に前向きな傾向がみられており、将来的に主要な投資ラウンドのパイプラインになると考えられます。プレグジット後は、人材の活用が当面の間の課題になると考えられますが、リモート勤務やハイブリッド勤務が昨年爆発的に普及したことで、グローバルでの人材が今までよりも活用しやすくなり、課題はいくらか軽減されたと考えられます。”



Kevin Smith

Head of KPMG Private Enterprise in EMA,
Global Co-Leader — Emerging Giants,
KPMG Private Enterprise, KPMG
Partner, **KPMG in the UK**

アジア – 2021年 第2四半期

アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、インドでの投資の急増に牽引されて、2021年第2四半期も増加しました。例として、BYJU (15億ドル)、Swiggy (8億ドル)、ShareChat (5億200万ドル) による資金調達が含まれます。



中国では1億ドル超の投資を多数実施

中国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第2四半期も依然として堅調で、Horizon Robotics (15億ドル、CVC)、Dingdong Maicai (7億ドル)、デジタルサプライチェーンプロバイダーのXingyun Group (6億ドル)、小売業者のZhuanzhuang (3億9,000万ドル)、オンライン食品企業のDingdong Machai (3億3,000万ドル)、ホームフィットネス企業のFuture Technology (3億ドル)、クラウドサービスプロバイダーのBeisen Cloud Computing (2億6,000万ドル) など、1億ドル超の資金調達が広範囲のセクターで実施されました。

中国の巨大テック企業に対する政府の関心や注目度が増したことで、eコマース、シェアリングエコノミー、物流などの分野に注力しているTier2およびTier3のテック企業に対する投資機会が増え、ベンチャーキャピタルの注目を集めています。このような企業の多くは現在、事業規模を拡大し、利益の創出を可能にする事業成長の実現に取り組んでいます。しかし一方で、投資市場への参入に対する注力度は低く、移行はまだ始まったばかりであると考えられます。



インドではベンチャーキャピタルによる投資が急増

2021年第2四半期のインドでは、ベンチャーキャピタルによる投資が急増し、2019年第4四半期の最高額を更新しました。これはベンチャーキャピタルだけではなく、FOMO (= the fear of missing out、取り残されることへの恐れ) を感じた従来型の投資ファンドが増加し、投資先としてパンデミック期に出現したデジタルビジネスモデルが広く合致したことも、その要因になっています。インドでは、企業の多様性がベンチャーキャピタルによる投資を呼び込んでおり、特に、eコマース、フードデリバリー、地域密着型の食品デリバリー、動画共有サービス、ゲームなど、消費者直結型のビジネスに注目が集まっています。

投資家は、BYJUをはじめとするインドのエドテック企業への投資を継続しており、同社は当四半期に15億ドルの資金調達を実施しました。フードデリバリーも2021年第2四半期に注目を集め、Swiggyは8億ドルの資金調達を実施しました。



アジアにおけるイグジット活動の急増

2021年第2四半期のアジアでは、イグジット活動が急増しました。特に中国では売却総額が2.5倍になったほか、インドでは売却総額が2.75倍に達しイグジットの記録を樹立しました。

当四半期、アジアではIPO活動もきわめて堅調でした。中国では新たな規制の導入が見込まれるため、国内のIPOはやや減速しましたが、米国において多くの中国企業がIPOを実施し注目を集めました。当四半期には、Full Truck Alliance (Manbang) も米国におけるIPOで16億ドルの資金調達を行いました。インドでは、フードデリバリーの巨大企業のZomatoが、当四半期にIPOを申請しています。



日本のスタートアップシステムはより大規模な投資を誘致

2021年第2四半期、日本は大規模な投資案件を誘致しました。これには、BNPR (後払い決済サービス) 企業でユニコーン企業となったPaidy (1億2,000万ドル)⁹、人事マネジメント企業のSmartHR (1億1,500万ドル)、QRコード決済ゲートウェイ企業のNetstars (9,000万ドル)¹⁰、デジタル分子分析の企業のAtonarp (5,000万ドル)¹¹などが含まれます。

日本のスタートアップエコシステムは成長を続けており、政府がイノベーションやアントレプレナーシップ推進への注力を強化していることが、その一助となっています。政府は「統合イノベーション戦略2020」¹²を策定し、COVID-19の影響下の日本におけるイノベーション能力の創出や研究力の強化に関する取組みを重視しています。また経済産業省は、2023年までに20社のユニコーン企業を創出するという目標を掲げています¹³。

9 https://paidy.com/media_center/press/article/45Uuag8qPWVlamEgNqb118

10 <https://www.netstars.co.jp/en/262/>

11 <https://www.atonarp.com/atonarp-news/atonarp-announces-50m-series-d-financing-to-scale-its-molecular-sensing-and-digital-diagnostics-testing-platforms>

12 https://www8.cao.go.jp/cstp/english/outline_strategy_2020.pdf

13 https://www.meti.go.jp/english/press/2018_06/0611_003_00.html

アジア – 2021年 第2四半期



COVID-19の影響下で健康やバイオテックへの注目が持続

各国の行政機関が、ワクチン生産から治験提供に至るまで、関連サービスを求めていることが大きな需要となっており、アジア全体でバイオテック、ヘルスケアサービス、ヘルステックなどに広く注目が集まっています。2021年第2四半期、中国では、宇宙事業への投資が特に堅調で、Jinwei（1億2,300万ドル）、Elpiscience（1億500万ドル）、AbogenBio（9,100万ドル）、Duality Biologics（9,000万ドル）による資金調達を実施されました。



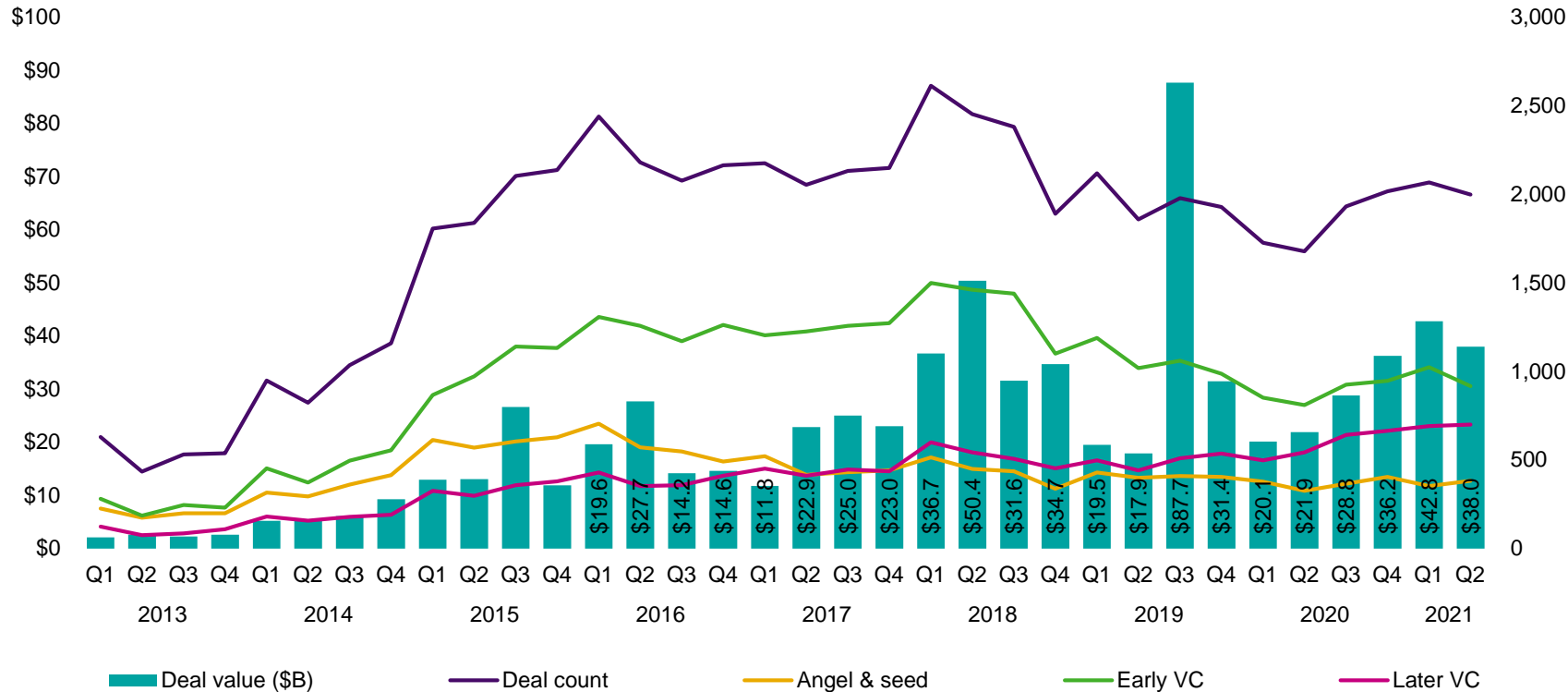
アジアで注目すべきトレンド

アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、特にフィンテック、eコマース、エドテック、健康、バイオテック、物流などの分野で堅調を維持することが予想されます。IPO活動は、2021年第3四半期において特にインドで注目すべき重要分野になるでしょう。Zomatoや他の企業がIPOを成功させ、資金を十分に調達できれば、ベンチャーキャピタルはインドの成長性に一層確信を持つと考えられます。

アジア – 2021年 第2四半期

Venture financing in Asia

2013–Q2'21



Source: Venture Pulse, Q2'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Enterprise. *As of June 30, 2021. Data provided by PitchBook, July 21, 2021.

“中国におけるベンチャーキャピタル市場は多様化しており、デリバリー、フィットネス、B2Bサービスなど、広範囲のセクターが投資を呼び込んでいます。超大型案件が実施されなかったことで、他の企業への投資機会が拡大しており、今後はさらなる投資に拍車がかかると考えられます。”

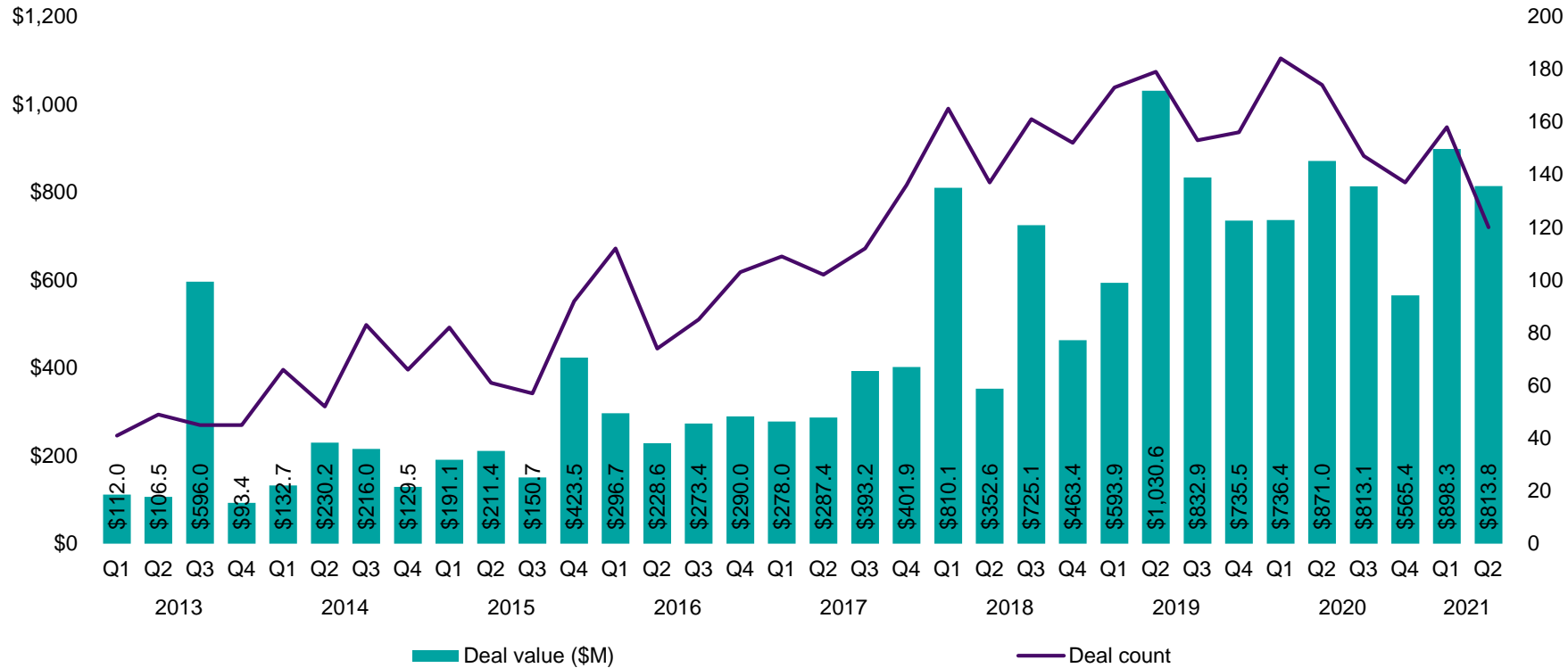


Egidio Zarrella
Partner, Clients and Innovation
KPMG China

日本 — 2021年 第2四半期

Venture financing in Japan

2013–Q2'21



Source: Venture Pulse, Q2'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Enterprise. *As of June 30, 2021. Data provided by PitchBook, July 21, 2021.

“日本のベンチャーキャピタル市場は急速に成長しており、政府がイノベーションやスタートアップへの支援をコミットメントに掲げていることが、その一助となっています。資金調達機会の増加、市場の成熟、優れた手腕を有する起業家の台頭が相まって、SmartHRの例にあるように、大規模な投資ラウンドを経て、事業規模の拡大を進行するスタートアップが増えていいます。規模が大きくかつ利益が見込める市場があり、起業成功のための機会が増えているという現状から、日本における起業や資金調達は継続的に成長傾向にあると考えています。”



Paul Ford

Partner, Head of Private Equity, KPMG Japan/M&A Deal Analytics Lead, KPMG FAS, Leader of Transaction Services, KPMG Japan, KPMG FAS



KPMGジャパン セクター統轄室

azsa-pr@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター

home.kpmg/jp/ja/home/industries/private-enterprise

英語オリジナル

[Venture Pulse Q2 2021 : Global analysis of venture funding](#)

home.kpmg/jp/socialmedia



本冊子は、KPMGインターナショナルが2021年7月に発行した「Venture Pulse Q2 2021 : Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

©2021 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://home.kpmg/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2021 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 21-1057

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.